

## Z302a オープンサイエンス/シチズンサイエンスの前史としてのアマチュア天文学

玉澤春史（京都市立芸術大学/京都大学）

研究プロセスの様々な段階をオープンにすることで新たな参加者を呼びこみ新たな価値を生もうとする運動である「オープンサイエンス」は科学技術政策でも重要視されるようになってきている。そのなかでも職業的研究者だけでなく一般市民も巻き込んだかたちで研究を進める「シチズンサイエンス」は研究のあらたな形式として注目されている。

世界的に見てもアマチュア観測家との連携や「Galaxy Zoo」による大規模調査など、以前よりオープンサイエンスにおける市民参加の優等生として天文学がしばしば登場している。2019年11月より国立天文台で新たなシチズンサイエンスのプロジェクトである「Galaxy Cruise」が開始するなど、日本の天文学コミュニティもその一翼を担っている。一方でオープンサイエンスにおけるシチズンサイエンスには様々な分野からの市民参加型研究が内包されており、その目的は各分野での市民参加がどのような役割を担ってきたかによってだいぶ違う。天文学におけるアマチュア天文学者との連携は Haklay(2013) の分類における「徹底した市民科学」により近いものであるが、その背景を探るには天文学研究の担い手としての職業専門家以外の天文学参加者がどのように育成されてきたかをシチズンサイエンスの歴史として他分野とも比較してとらえなおす必要がある。